

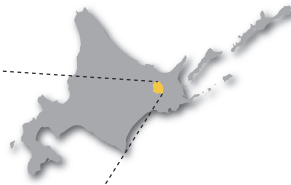
# 1

## \ 第1章 /

# 観光振興計画について

## 弟子屈町の自然観光資源

### 弟子屈町



東西 28.8 km

南北 31.0 km

面積 774.33 km<sup>2</sup>

東経 144 度 13 分、北緯 43 度 23 分から 42 分の地点にあり、町の面積の 65% は阿寒摩周国立公園に位置しています。

日本最大の屈斜路カルデラ、日本一の透明度をほこる摩周湖、活火山のアトサヌプリを擁します。

### 弟子屈町の自然観光資源

弟子屈町の「自然観光資源」はエコツーリズム推進全体構想で定義しています。

豊かな自然資源を背景とした本町の観光は、2016 年（平成 28）策定（2020 年変更認定）の『てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想』がその根幹を成しています。2022 年の観光振興計画策定から 4 年が経過し、この資源定義は地域に深く浸透していることから、本後期計画においても新たな定義付けは行わず、同構想を基盤とした持続可能な観光施策を展開します。

#### 弟子屈町の自然観光資源

▼「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」より一部抜粋

#### ① 動植物の生息地または生育地その他の自然環境に係るもの

【動物】哺乳類（エゾシカ、ヒグマ、エゾシマリス、エゾモモンガなど）、鳥類（タンチョウ、シマフクロウなど）、魚類（イトウ、ヒメマスなど）、両生類、昆虫類、甲殻類（ニホンザリガニ）、火山活動の影響を受けた昆虫類

【植物】森林植生、噴気孔原植生、弟子屈の名木、マリゴケ

【動植物の生息地、生育地】オオハクチョウ飛来地、つつじヶ原

【地形・地質】火山（硫黄山）、火山地形・活動（カルデラ、溶岩円頂丘）、温泉、湖沼（摩周湖、屈斜路湖、キンムトー）、河川（釧路川）、滝

【自然景観】眺望（峠）、星空、雲海

#### ② 自然環境と密接な関係を有する風俗習慣その他の伝統的な生活文化に係るもの

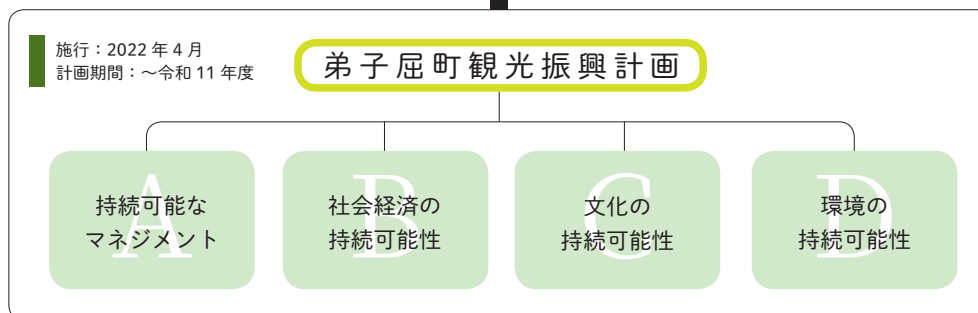
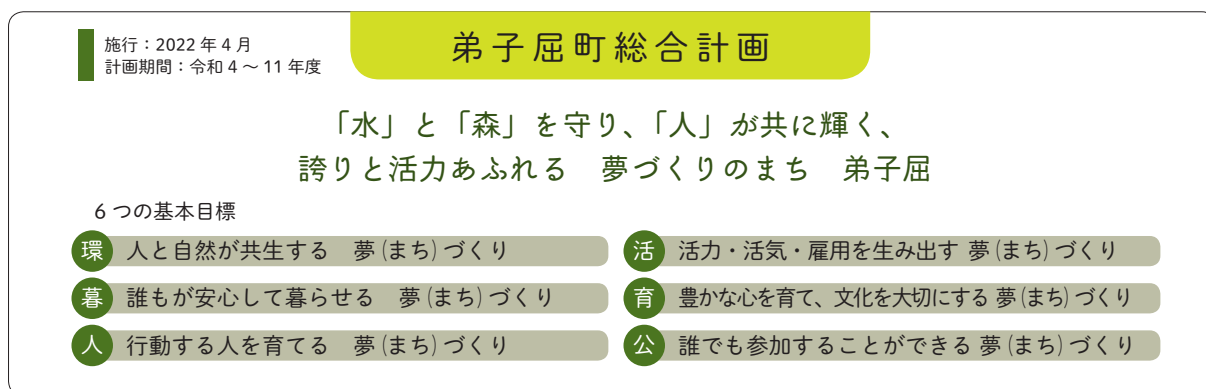
【史跡】青葉トンネル 【伝統文化】アイヌ文化

#### ③ 特定自然観光資源：「硫黄山の噴気孔」

# 観光振興計画の位置付け・期間

## 位置付け

本町の指針である「第6次弟子屈町総合計画（令和4年度～11年度）」は、策定から4年が経過し、令和8年度からは後期計画期間に入っています。本観光振興計画においても、この総合計画の着実な推進を図るための実施計画として、また「てしかがまち・ひと・しごと創生戦略」との緊密な連携のもと、前期の進捗と社会情勢の変化を反映した具体的なアクションプランを定めています。



## 対象期間

第6次弟子屈町総合計画は、令和4年度から令和7年度の前期と、令和8年度から令和11年度の後期に分かれています。本計画においては長期的な視点で観光政策の全体を見ながらも、4年ごとに軌道修正を加えながら、総合計画と連動する形で具体的なアクションプランを推進していきます。

2022～2025年度 (令和4～7)	2026年度 (令和8)	2027年 (令和9)	2028年度 (令和10)	2029年度 (令和11)	2030年度～ (令和12～)	
前期		後期			新規	
実施	効果検証 	・第6次弟子屈町総合計画（後期） ・第3期てしかがまち・ひと・しごと創生戦略 ・弟子屈町観光振興計画（後期）			効果検証 	次期計画 策定・実施

# 観光の重要性

## 日本にとっての観光の意義

観光庁によると、日本にとっての観光の意義とは主に以下の4点です。

### 1 成長戦略の柱

急速な成長を遂げるアジアをはじめとする世界の国際観光需要を取り込むことによって、日本の力強い経済を取り戻します。

### 2 地方創生の鍵

人口減少・少子高齢化が進行する中、国内外からの交流人口の拡大や旅行消費によって地域の活力を維持し、社会を発展させます。

### 3 国際社会での日本の地位向上

諸外国との双方向の交流を通して、国際相互理解を深め、我が国に対する信頼と共感を強化します。国際社会での日本の地位を確固たるものとするために、観光は極めて重要です。

### 4 自らの文化・地域への誇り

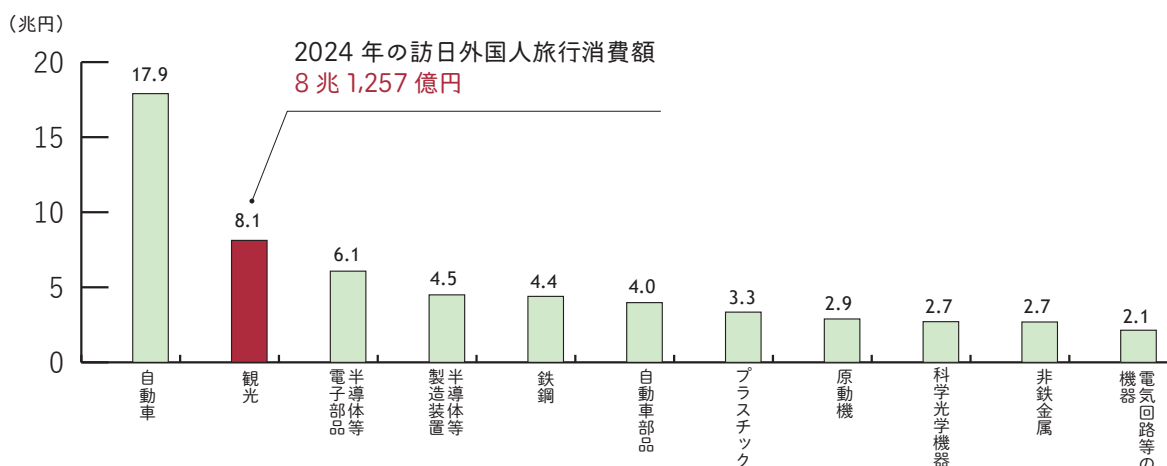
観光は、地域固有の自然や文化資産の保全と活用の好循環を促す重要な産業です。外部からの高い評価は、住民の地域への誇りを醸成するきっかけとなります。そして、この誇りこそが、地域資源を守り、未来を共につくり上げる持続可能な地域づくりの基盤となります。

## 訪日外国人の旅行消費額

2024年の訪日外国人による旅行消費額は、総額8兆1,257億円に達しました。輸出額ベースでは自動車に次ぐ第2位となり、コロナ禍を経てもなお、日本にとって観光が重要な「産業」として回復・成長していることが示されています。

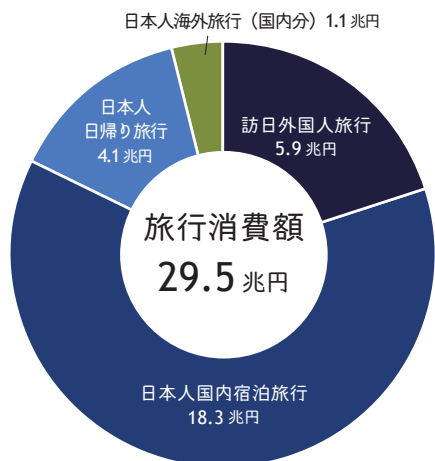
「訪日外国人の消費動向2024年 年次報告書」（観光庁：[https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei\\_hakusyo/gaikokujinshohidoko.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/gaikokujinshohidoko.html)）  
「貿易統計 令和6年分（確定）」（財務省：[https://www.customs.go.jp/toukei/shinbun/trade-st/2024/2024\\_117.xml](https://www.customs.go.jp/toukei/shinbun/trade-st/2024/2024_117.xml)）をもとに作成

【表1】訪日外国人旅行消費額の製品別輸出額との比較



## 旅行消費額の波及効果

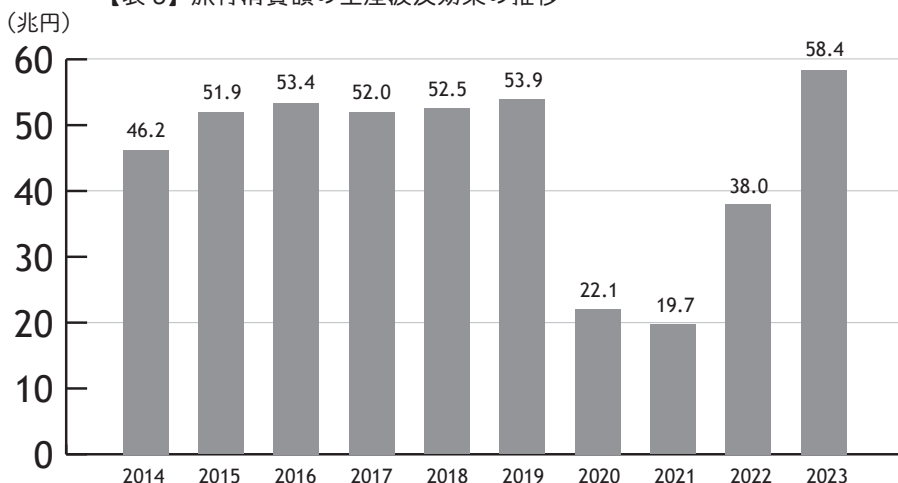
【表2】旅行タイプ別・消費額（2023年）



観光業は裾野の広い「総合産業」と言われています。観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」によると、2023年の日本国内における旅行消費額は総額 29.5 兆円とされています。この旅行消費が他産業にもたらす生産波及効果は 58.4 兆円に達しており、2023年には過去最大となっています。また、約 530 万人の雇用が創出されていると試算されています。

表2・表3は「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」  
(観光庁：https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001758299.pdf) をもとに作成

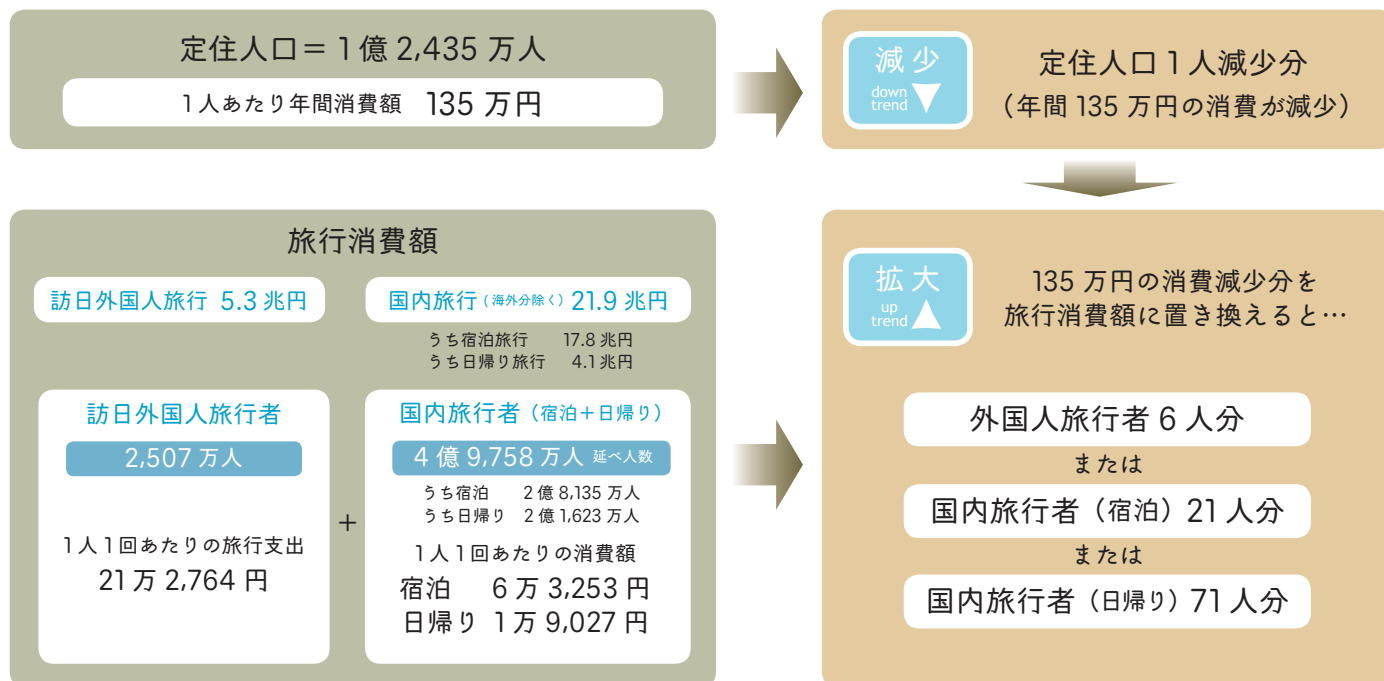
【表3】旅行消費額の生産波及効果の推移



## 観光交流人口増大の経済効果（2023年）

定住人口 1 人当たりの年間消費額（135 万円）は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者 6 人分、国内旅行者（宿泊）21 人分、国内旅行者（日帰り）71 人分にあたります。

「我が国観光産業の現状と今後の展望（令和 6 年 10 月 10 日）」（観光庁：https://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/content/000335103.pdf）をもとに作成



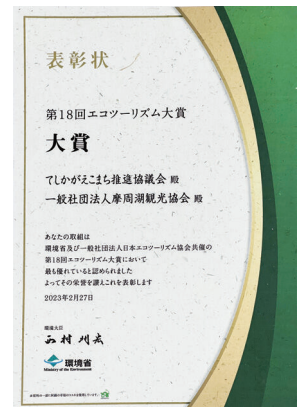
# 前期計画の検証と後期計画の展望

## 前期計画の成果

前期計画期間においては、一般社団法人摩周湖観光協会のDMO法人登録や、エコツーリズム推進に向けた体制構築など、持続可能な観光地域づくりに向けた重要な「基盤整備」を着実に進めました。コロナ禍という未曾有の困難の中にあっても、将来を見据えた組織づくりと方向性の共有が図られたことは、本町の観光振興における大きな成果であると評価しています。

特に、エコツーリズム推進の象徴的な取り組みである「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」の仕組みを使ったアトサヌプリの立ち入り制限規制と、認定ガイド制度の運用による「アトサヌプリトレッキングツアー」の実施は、国内外から大きな評価をいただき、2023年には「第18回エコツーリズム大賞」および「Green Destinations TOP100 STORIES」を受賞しました（p.48 参照）。

また、当町の観光の中心地である川湯温泉街の再整備に向けて、廃屋となったホテルの取得や取り壊しが進められ、本計画の個別計画として「川湯温泉街まちづくりマスタープラン」や「川湯温泉街景観ガイドライン」の策定が進められたこと、観光中核地である摩周湖やアトサヌプリ（硫黄山）でのレストハウス改修などが行われたことも成果として挙げられます。



## 前期計画の課題と後期計画の展望

前期計画期間中にはさまざまな成果があった一方で、整備された基盤を、具体的な「地域経済への還元」と「自然資源の保全」という持続的な循環につなげていくことについては、十分な成果が上げられたとは言えません。コロナ禍で落ち込んだ入込数や宿泊者数は、計画で掲げたコロナ前の水準まで回復せず、この4年の間にも、新規宿泊施設の開業は多かったものの、大型ホテルの休廃業などがあり、地域としての受入キャパシティは減少しています。繁閑差や働き手の不足など、事業者の抱える悩みも解消には至っていません（KPIの達成状況は次ページ参照）。

後期計画においては、引き続きこれらの課題解決や、旅行消費額の拡大、その収益が自然保護や住民生活に還元される仕組みづくりが求められています。

## 後期計画に向けた管理組織の役割分担

### 弟子屈町（行政）

【制度設計と環境整備】持続可能な観光地経営を整える役割を担います。具体的には、宿泊税などの導入検討を含めた自主財源の確保や、自然環境を守りながら活用するためのルール形成の主導、観光地の再整備を通し、安定的かつ質の高い受入環境を構築します。

### 摩周湖観光協会（地域DMO）

【マーケティングとマネジメント】地域観光の「司令塔」として、データに基づくマーケティングと、適切なプロモーションを実施します。住民や地域環境に負荷を与えない持続可能なマネジメントを通して、地域全体で稼ぐ仕組みをデザインします。

行政による環境整備とDMOによる事業推進を「車の両輪」とし、町民・事業者との協働のもと、世界水準のサステナブルな観光地としてのブランドを確立します。

前期計画の達成状況

	項目	2021年度 (令和3)	2022年度 (令和4)	2023年度 (令和5)	2024年度 (令和6)	2025年度 (令和7) 推計値*	設定 KPI	達成度 (%)
全体	JSTS-D各項目に基づく評価と検証	実施	実施	実施	実施	実施	毎年実施	100
	Green Destinations TOP100 選出	-	落選	選出	-	-	選出	100
マネジメント	町民満足度 (%)	43	49	51	51	51	50	100
	観光振興計画に対する町民の認知度 (%)	未策定	46.7	41.9	38.1	-	20	100
	観光振興計画に対する町民の理解度 (%)	未策定	41.7	42.6	44.3	-	20	100
	観光振興計画に対する町民の共感度 (%)	未策定	40.1	40.9	42.5	-	20	100
社会経済	観光入込客数 (人)	524,689	646,777	706,776	755,513	762,217*	900,000	85
	旅行消費単価 (円)	29,154	47,229	45,829	50,194	50,588	27,000	100
	宿泊者数 (人)	91,436	149,726	168,231	176,808	183,535*	240,000	76
	来訪者満足度 (%)	17.9	20.2	27.8	21.7	22.9	30.0	76
	リピーター率 (%)	71.4	61.0	67.4	65.4	66.3	70.0	95
	観光消費額 (億円)	76	171	206	193	222*	144	100
	温泉ランキング (位)	59	59	70	55	72	30	42
	道の駅ランキング (位)	24	22	22	14	4	10	100
文化	文化資源に対する町民の認知度 (%)	11.0	16.9	16.3	15.9	-	20.0	80
	文化資源に対する町民の理解度 (%)	14.0	16.9	16.3	15.9	-	20.0	80
	文化資源に対する町民の共感度 (%)	8.0	16.1	16.4	16.4	-	20.0	82
環境	自然資源に対する町民の認知度 (%)	46.0	22.3	21.9	20.9	-	55.0	38
	自然資源に対する町民の理解度 (%)	20.0	22.3	23.2	23.0	-	30.0	76
	自然資源に対する町民の共感度 (%)	16.0	20.2	19.8	23.6	-	25.0	94

※ 2025年度の数字は、後期計画策定時点において確定していないため、2025年12月31日時点の数値を元に、2026年1月～3月の見込み数字を足した「推計値」を記載しています。

推計値の算定が困難な項目は、記載していません。

※ 達成度 (%) は、2025年度の数字が無い項目については、2024年度の数値により算出しています。